



早いもので、1 学期もあとわずかとなり、もうすぐ夏休みです。日ごろは母親委員会活動に対しご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、今年度の石尾台中学校ブロック母親委員会は 4 校 25 名のメンバーで活動を始めました。今年度も知的障害児施設「はるひ台学園」での奉仕活動をはじめ、講演会・研修会への参加や他校との情報交換などの活動を予定しています。そして、「母親委員会だより」を通して皆様にその活動報告をしてまいります。一年間よろしくお願いいたします。

平成 22 年度石中ブロック母親委員会メンバー

◎ ブロック長 ○ 母親委員長

石尾台中学校 (6 名)	石尾台小学校 (6 名)	玉川小学校 (6 名)	押沢台小学校 (7 名)
○ A	○ G	◎ M	○ S
B	H	N	T
C	I	O	U
D	J	P	V
E	K	Q	W
F	L	R	X
			Y

1 学期の活動報告

親子観劇会 5/29 玉川小学校

「ジョディと子鹿のフラッグ」

“劇団むすび座”

当日はお天気に恵まれ、ご父兄のみならず、小さな子や、ご年配の方の姿も見られ、本当に多くの方が参加されていました。劇は、人形だけでなく、操る人も一緒に舞台を盛り上げていくという、新しい形の「人形劇」でした。主人公ジョディが、友人の死や、大切に育てた子鹿との別れを乗り越えて成長していく姿にとっても感動しました。また、そんなお話しの中にも笑いがあり、子供と共に笑い、感動を共有する素敵な時間をうれしく思い、毎日ほんのわずかでも、そんな時間を持てるよう心がけたいと、思いました。

福祉講演会 6/8 石尾台中学校

「生命 いのちを支える」 きくち寛 (シンガーソングライター)

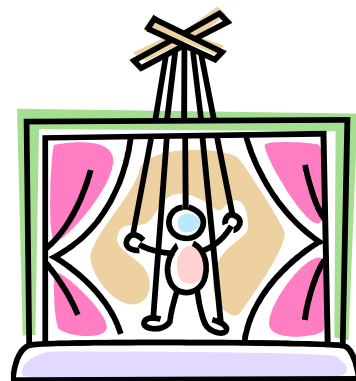
きくち寛さんは、シンガーソングライターとして活躍される中、パーキンソン症候群のお母様の介護を14年間見てこられました。その、きくちさんが、「人間は五体満足で健康でなくてはならない、といわれているけれど、人の命は、どんなに苦しくても、健康を保とうとする営みをしている」仙台の在宅看護のトップ、川島先生の、この言葉に助けられたそうです。人は、生まれてきたこと自体が、百点満点であるのに、それを人は、他と比較し、減点しながら生きてしまう。まず、おのれ自身の良心を育て、はぐくむ、それこそが、人間の生命、そして、社会を支えているのである、という貴重な話を、素敵な歌と共に聞かせていただきました。

芸術鑑賞会 6/9 押沢台小学校

「劇団むすび座 地獄八景亡者戯」

“劇団むすび座”

押沢台小学校体育館にて、観劇をさせていただきました。この劇は、物を大切に作る心や、命の大切さを、子供たちにわかりやすく、そして楽しく、伝えていたと思います。「子供が大事でない親はいない」という台詞には、一親として、思わずホロリときてしまいましたが、コミカルな人形の動きと、面白おかしい台詞のまわしに、子供たちは大爆笑し、客席にまで演者が来て、演技をする臨場感、そして、普段あまり耳にすることのない生の三味線や、笛、太鼓などの伝統的な音楽も楽しめたことは、よい経験だと思います。



----- 今後の活動予定 -----

9/16	コロニー奉仕活動 (繕い物)	10/27	コロニー奉仕活動 (貼り絵)
11/10	青少年健全育成市民大会	11/23	教育フォーラム in かすがい
11 下旬	文化のつどい (石尾台小)	1/12	市P連研究発表大会
2/14	第2回石中ブロック母親委員会		

その他市P連の講演会等に参加